

街道を歩く

姫街道：14 豊川(馬場町)―御油(追分)



三河国総社
 正確な国衙の位置は確認されていないがこの地域と思われる。赴任した国司は国内の神社を順次奉幣するのが慣例であるがこれは大変なので国衙の近くに社を設けて国内の神社の祭神を勧請し代拝していた。尾張の総社は国府宮。



牛久保城址
 享禄2年(1529)一色城主牧野古白二男成勝が築城したといわれている。扇状台地の端につくられた平城で二重堀に囲まれ、城を囲むように武家屋敷、その北に町人屋敷、周辺に寺院があった。すべての通りは曲尺手で近世城の先駆なすものであった。元禄13年(1700)天領となり廃城。



ちょうこくじ
長谷寺
 山本勘助の墓(遺髪塚)がある。勘助は明応9年(1500)三河国八名郡賀茂村に生まれ15歳の時牧野家臣大林勘左衛門貞次の養子となり26歳で修行に出て35歳の時帰ると大林家に実子生まれていたのが縁を切り三河を離れ45歳で信玄に仕える。永禄4年(1561)川中島の戦いで討死。勘助は長谷寺の和尚念宗と親しく出家した時髪を和尚に預けていた。和尚は勘助の死を悼み遺髪を埋め墓を建てた。



大聖寺
 境内に今川義元の胴塚と呼ばれる墓がある。桶狭間で最期を遂げた義元の胴体を家臣が牛久保まで運び埋葬したという。永禄6年(1563)今川氏真が三回忌に墓石建てたという。義元の墓の横に一色刑部少輔時家の墓がある。時家はこの寺あたりに城を築いた。一色城といった。文明9年(1477)家臣の波多野全慶に殺害された。

西明寺
 三河の国司大江貞基が世をはかなみ草庵を結び六光寺と呼んだのが創建のいわれ。後に臨済宗最明寺と改め、さらに曹洞宗に変わり家康より西の字を戴き西明寺となったという。境内にはベルツ博士の墓がある。水原秋桜子句碑が添えられている。
 "菊にほふ国に大医の名をとどむ"



三河国分寺跡(国史跡)
 天平13年(741)聖武天皇が「国分寺建立の詔」これにより三河でも国分寺が建てられ文化の中心となった。当時は東西南北600尺(約182m)南大門、七重塔、金堂・あったが平安末期に七堂伽藍焼失。今は国府山国分寺となっている。

三河国分尼寺跡(国史跡)
 昭和42年の発掘調査で南大門、中門、金堂、講堂、回廊が確認される。金堂は七間四間で全国で最大級、回廊は複式で珍しい形式。



妙厳寺(通称豊川稲荷)
 嘉吉元年(1441)東海義易禅師創建。16世紀中頃今川義元が伽藍造営。本尊千手観音菩薩、天保5年守護神の陀釈尼真天(タキニテン)が祀られてから有名になる。本殿は明治41年起工、昭和5年完成総ケヤキ造り。



三明寺
 大宝年間(701-4)文武天皇の勅願で創建、貞観年間(859-77)に弁財天の像を寄進したといわれ大江定基が愛妾力寿姫の死を悼これが本尊となっている。源平の争乱で焼失、14世紀末再建。建立、1、2層和様、3層唐様。三重塔(国重文)は享禄4年(1531)